

～輝きの子育て～

「読み聞かせ」について

「子供たちの意欲を伸ばすためには、特に0歳から6歳までの未就学期における親子のコミュニケーションが大事である」と語るのは、脳科学者の川島隆太東北大学教授です。

なぜ、親子のコミュニケーションが子供たちの意欲を伸ばすことに繋がるのか。脳の深部にある感情や情動を司る「辺縁系（へんえんけい）」（心の脳とも呼ばれているところ）を育むことが意欲を伸ばすベースになっているのです。この「心の脳」には、親子のコミュニケーションによって「緊急避難基地」が作られることも解っています。

子供に何か嫌なことがあった時、自分の中に逃げ込める場所を持っているか否かは、子供の行動に大きな違いとなって現れます。

「読み聞かせによる親子関係の変化について」の調査研究が東北大学主体で行われました。対象は、未就学児とその保護者40組で8週間に亘って行われました。

読み聞かせの前後に脳機能計測器を使って調査しました。

読み聞かせの時間は平均13分、入眠前を中心に行われました。本は子供の興味を示すものを中心に親を選んで貰った。その結果、特筆すべきものとしては、語彙数の急激な増加、聞く力の顕著な成長であった。

子供の変化に関連してか、親が育児で感じるストレスが減少していたことも明らかになった。読み聞かせの時間が増えるほど、それに反し親のストレスが減っていった。

親からは「読み聞かせっていいな、子供がますます可愛くなってきた」という声もあったようです。

幼少期の読み聞かせが、後の本人の読書習慣につながり、それが読解力ひいては学力全般に影響を与えることも解っています。読解力は、国語のみでなく数学や理科のスコアにも影響を与えています。

家庭における親子の読み聞かせに始まり、次に親子の音読、さらには小学校の授業での音読に繋げていくことで、自ずから子供たちが読書を行う流れができるのが理想です。

まずは、自らのストレスが減って楽になり、子供の将来に必要な力が身につく、一挙両得の家庭での読み聞かせを始めては如何でしょうか。

片野 英司



参考「読み聞かせで明日の教育をひらく」
山形県長井市地方創生戦略監 泡淵 榮人
雑誌 致知 2018年8月号の記事

「読み聞かせが子どもの将来を変える？」
脳科学からの示唆」

石川 泰
特定非営利活動法人サルタックのブログ